

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム にこトピア浄法寺

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホームにこトピア浄法寺		
所在地	岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	平成 25 年 1 月 5日	評価結果市町村受理日	平成 25 年 6 月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0391300019-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 25 年 1 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

元小学校ということもあり、施設周辺は広い敷地となっている。利用者の要望に応えられる環境となっており、草取り、散歩などで運動しやすい環境となっている。敷地内にはゲートボール場を備えており、近隣住民が集まり利用者や地域住民との関わりをもつ機会にも恵まれている。特徴としては利用者の平均介護度が2.1と軽度であり、利用者や職員が共存できる体制となっている。「与えられるサービス」ではなく、利用者1人1役をもっており、一緒に行動する事で、互いに信頼関係を積み上げていく形となっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧小学校を改修した建物の2階にあり、1階には同法人の小規模多機能施設が併設されている。エレベーターを設置し手すりを取り付け安全に配慮し、室内は明るい配色で安心して暮らせるよう工夫している。24年3月に、開所して7年になることから、拠点としている理念について全職員のアンケートを実施・検討した結果、4月から「思いを一緒に考え、今、この一瞬を大切にしたい日々を共に歩みます」として新たに定め、職員は新たな気持ちで実践に向けて取り組んでいる。事業所としては地域と気軽に近所づきあいができる関係を構築したいとして、ゲートボールの練習や大会などにグラウンドを開放、飲物を提供し交流を深め、また災害対策では、昨年を上回る多数の地区消防団員の協力を得て訓練を実施し協力体制を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム にこピア浄法寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成24年度、理念の見直しを図り、職員の意見をまとめ理念作成を行った。	理念について全職員のアンケートを実施・検討した結果、新たに「思いを一緒に考え、今、この一瞬を大切にしたい日々を共に歩みます」と新たに定め、廊下等に掲示し管理者と職員は意識しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゲートボール大会での差し入れ、学生の慰問、祭りへの社会資源を活用して地域住民との関わりの機会を持った。	町や市が開催するゲートボール大会にグラウンドを貸し、当日はジュースを提供し、町主催の文化祭に作品を出展したり、体験学習会を受入れたりしてホームを理解してもらうために地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事、買い物と地域に出向き、地域住民との関わりを持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での参加者より施設状況の伝達、不明な点を相互に話し合い、施設運営についての理解、発展に努めた。	2ヶ月に1回開催し、行事や入居・事故状況など利用者の生活全般について報告し、除雪の相談、行事が少ないのではなど質問には丁寧に説明し提言など運営に活かすよう努めている。	今年度の開催に当たっては、電話で日程を調整し案内した結果、全員の出席を得ている。会議は、委員が協力者として助言する場でもあり、積極的に関わられるよう、今後の会議の運営に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	渉外活動を通じ、施設状況の伝達、情報交換を行っている。	包括支援センターとは、生活状況、健康の状況など情報交換とパンフレットの配布を依頼し利用者の情報を頂いたり、福祉課、生活保護課にも毎月訪問し相談や情報交換しており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の内容の理解を勉強会を通じて理解している。	ホーム独自で身体拘束と高齢者虐待についてのマニュアルを作成するとともに言葉による虐待や薬物利用についても勉強し、場面を想定しながら管理者・職員が研修に取り組み理解しており、ケアに反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての記事を職員へ公表し、情報を周知している。他に勉強会を通じて内容を理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護勉強会を通じて理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に利用者面談を行い、施設概要を説明したうえで契約、入所に至っている。入所時、入所後と不明な点を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート、施設の意見箱を通じて相互理解に努めている。他に、面会の際にコミュニケーションを通じて説明している。	家族も参加する推進会議や面会時に聞いたり、広報「にこにこ」と連絡帳の活用、家族アンケートでは掃除・臭い・挨拶など17項目にわたる具体的で分かりやすい質問項目で実施し、意見を聞いて運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を通じて意見交換の場を設けている。他に迅速に対応が必要な場合は状況に合わせて話し合いを持っている。	毎月開催の職員会議を活用し、業務分担表の調整では、トイレ掃除やりネン交換、食材購入では長期保存できるような冷凍庫を購入するなど、意見・提言を取り入れ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを作成して、施設として目標を立てて活動している。基準点を設け、皆で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内、外の研修に参加して現場に周知して施設サービスの向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設交換研修を通じて交流をしている。他、定例会での勉強会に参加して習得した知識を現場に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族を含めた面談を行い、入所時の不安、不明点を可能な限り解消できるように努めている。入所後、利用者同士の関係構築の為に職員で配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際、入所前と不明点を聞き対応している。入所後も状況を家族へ報告して関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請があった際、グループホームの目的を説明している。相違があった場合、デーサービス、介護老人福祉施設と説明して選択できるよう伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗洗い、掃除等職員と一緒にいる事が目的としてあり、一緒に行動する事で共存の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報、電話。他に面会時に積極的に関わりをもち家族に身近に感じて頂けるよう関わりを持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話でのやりとり、利用者がご家族と外出をして、利用者これまで取り巻いてきた環境から孤立しないよう外部へ働きかけている。	食材購入時に自宅近辺の思い出の場所に寄ったり、家族の協力でお墓参りを継続したり、出身地のお祭りに出かけるほか、敷地内で行われるゲートボールで出会った昔馴染みとの懇談など馴染み関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士のコミュニケーションが図れるよう配慮している。他、訴えに合わせて個別に対応もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後、ご家族より心配な部分について、施設での生活状況や助言をしてフォローをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを尊重して関わりを持っている。困難なケースの場合は他サービスの協力を得ながらサポートしている。	生活歴など基本情報をもとに、日ごろの会話で気をついたことを申し送りして職員で話し合い、また連絡帳に記録し把握するよう努め、家族にも協力してもらい相談しながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴に合わせ、草取り、裁縫、日常作業と個々に合わせて対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を用いて個々の生活状況について記録をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に支援を行っている。定期的にケアカンファレンスを行い、現状に合わせた支援を行っている。	支援で気づいたことを申し送り時に話し合い、課題などは連絡帳に記録、家族とも相談しながら毎月のケアカンファレンスで検討し、本人の思いや能力を生かせるよう配慮して作成している。また、6ヶ月毎に全利用者について見直している。	介護支援計画は他の介護職員も見れる状態なので理解しているとの事であるが、チームで作成する過程を通して意識の一本化を図ることが望ましいので、職員間協議を経て作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の話し合いや、連絡帳を活用して状況に合わせた対応をしている。変化が見られた際は状況にあった支援を検討、実施をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームサービスのみならず、併設事業所との関わりをもち多人数との交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の同行、訴えに合わせた買い物、散髪と地域資源を活用して生活の質の向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望に合わせた受診体制をとっている。専門医との連携が必要な場合は医療機関に紹介状を作成して頂き、専門医療機関へ受診する体制をとっている。	入居時に相談して変更する場合もあるが、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。町内は職員が同行受診し、以外は家族が対応している。受診結果は、その都度電話で連絡し情報は相互で把握しており、医療機関との関係も良好である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職として不明な点を医療的観点でアドバイス、対応をして利用者支援に繋げている。体調不良の際は看護師へ相談して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーや情報交換を行い、円滑な対応ができるよう関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を契約時に結び、契約に沿った対応をしている。	法人として「重度化及び看取り介護に関する指針」を作成し、対応する場合の基準を定めている。契約締結時に、医療行為が必要になれば他施設の紹介など、家族と相談しながら対応することを説明し了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、講習で学んだ知識を基に対応できるようにしている。他、緊急時、対応マニュアルを用意して状況にあった対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を通じて、地域消防団員との連絡体制、協力体制を築いている。	年二回実施しており、1回目は3地区の地元消防分団員の協力を得て消防署の立会いで火災を想定、2回目は事業所のみで地震を想定して実施、職員は利用者の安全を確保しながら避難誘導できるよう訓練している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアル、接遇チェック表を基に利用者との関わりの留意点を踏まえて対応している。	接遇チェック表を作成し、職員の自己評価と管理者の評価を行っており、言葉遣いや、サービスの面でも「待たせない」介護支援の実施や利用者の話を否定せず「受け入れる」姿勢の改善がみられたとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動に制限を設けず、自己決定を第一に支援している。訴えに合わせ、職員と共に行動している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の時間を大切にしている。散歩、買い物の同行、自販機での飲み物購入と個人に合わせ、生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択をしていただくよう支援している。洗面所に鏡を設置しており、鏡を見て整容して頂くよう声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時、利用者の意見を取り入れ献立作成している。食事の配膳、食後の茶碗洗い等、一緒に活動している。	希望するメニューを取り入れ、調理や昼食時は能力を活かせるように配慮し、食事は職員が表情を見ながら「いただきます」と利用者に声掛けを促し、職員も食卓を囲み和やかな雰囲気ですぐに食事が出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、排泄チェック表を記録して状況把握に努めている。入居者個々に合わせ、食事提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	業務マニュアルで口腔ケアの時間を設け、個々に対応している。困難な方に対しては自分で口腔ケアをした後、職員がサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを基に個々の状態を把握している。誘導、声かけをし、失敗の減少に繋げられるよう支援している。	個別に排泄パターンを作成し、落ち着いたない時、食事の前後に声かけ誘導し自立に向けて取り組んでいる。また、トイレには呼び出しベル、手すりを取り付け、車椅子でも利用でき安全に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活の中に体操を取り入れ運動の機会を作っている。他に水分量の把握、看護師との相談のうえ、下剤を活用して便秘の改善に励んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のタイミングに合わせて入浴して頂いている。利用者同士で入浴したい旨がある場合は要望に合わせた対応をしている。	二日に一回の入浴で午後の時間とし、好きなもの同士で入浴する場合もあり、入浴を拒む利用者には、時間を掛けて声がけするなど工夫し、羞恥心に配慮しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールで談話、テレビを見たりして落ち着いた環境を作っている。入床時間を個人のタイミングに合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時、服薬状況を確認して対応している。通院記録、連絡帳にて服薬状況を伝え誤薬防止をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常では洗濯物たたみ、掃除等、できる事を把握して生活の張りをもっといただくよう支援している。他、外出をして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の訴えに合わせ、外出している。訴えない利用者についても定期的に併設事業所へ散歩をして気分転換していただくよう支援している。	天気の良い日は、ホーム前のグラウンドで職員が見守る中、散歩したり花壇の草取りをしたり自由に行動している。買物の希望があった場合には、その日のうちに対応したり、季節には、天台寺のアジサイ祭り、花見や紅葉など外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訴えに合わせた買い物での外出。散歩後の施設内自販機での飲み物購入と資源を活用していただけるようにしてい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、いつでも連絡できるようにしている。番号の理解力が低下している利用者については、サポートして連絡するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった掲示物を掲示したり、病状により居室が不明な利用者については名前、トイレの標識を貼り混乱しないよう配慮している。	廊下は広く、天井も高い。食堂兼ホールにはテーブル椅子のフローリング部分と座敷部分もあり、ソファとテレビを置いて、壁には折り紙、塗り絵の作品や季節を感じさせるミズキ団子を飾り、ゆったりくつろいで過ごせるよう工夫して空間作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大型テレビ、ソファ、こたつと設置して利用者が共有して過ごせるスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂くよう説明をしている。位牌を居室に供えている方もおり、生活の流れを阻害しないようにしている。	ダンス、ベッド、ソファ、FF式ストーブ、小物入れのキャビネットが備え付けとなっている。利用者は家族と一緒に人形や家族の写真などの飾り付けを行い、自由に楽しく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時、手すり、バリアフリーとして、自立した生活を送れるよう環境を整えている。		